

令和 6 年度 第 2 回社会教育委員会 会議 会議摘録

開催日時：令和 6 年 1 0 月 2 9 日（火） 午後 3 時 0 0 分～午後 5 時 0 0 分

開催場所：精華町立図書館 1 階 集会室

出席委員：

高鍋房美委員長、村上栄副委員長、尾崎麻由美委員、堀口紀代美委員、播磨富士子委員、尾崎万佐子委員、吉田一雄委員、丸山琴羽委員、向井麻美委員、木崎政行委員

出席事務局職員：

教育長 川村智、教育部長 松井克浩、生涯学習課長 小笠原文紘、生涯学習課担当課長 上野泰弘、生涯学習課社会教育係長 瀧阪尚也、生涯学習課主任主査 大竹素、生涯学習課主査 北川哲哉

傍聴者：無し

内容

1 議事

（１）生涯学習課の実施事業について

①精華寿大学について

②精華町二十歳のつどいについて

2 報告

（１）これまでに参加した社会教育委員関連事業等について

（２）今後の社会教育委員関係の年間行事予定について

（３）社会教育委員として参加している他団体の活動について

（４）中学校部活動の地域移行実証事業について

（５）図書館の自習可能席について

《会議内容》

1 開会

小笠原生涯学習課長より第2回社会教育委員会議を開催するにあたり、委員定数12名のうち10名が出席のため、精華町社会教育委員会議運営規則第7条第1項の規定に基づき半数以上の出席により会議が成立していることを報告され、会議を開始。

高鍋委員長、川村教育長よりそれぞれ挨拶をいただき、高鍋委員長を議長として議事を開始した。

事務局より、今回の会議資料の説明と令和6年度教育要覧、令和5年度図書館年報と社協情報並びに研修会等不参加者への資料を配布した旨報告。

2 議事

(1) 生涯学習課の実施事業について

①精華寿大学について

(事務局)

精華寿大学の趣旨について説明させていただく。生涯学習の事業の1つとして、町内在住・在勤の60歳以上の方を対象に学ぶことに意欲と喜びを持ち続け、積極的な社会参加を行うための必要な知識を習得することを目的として実施している。

1976年から設立し、来年度でちょうど50周年を迎え、これまでに受講した卒業生は令和6年3月31日現在で4,081名となる。対象者については先ほど申し上げた通り、町内在住・在勤の60歳以上の方を対象として実施をしており、参加費については現時点では無料としている。社会見学の管外研修等については、その都度かかる金額について実費徴収をしている。

今年49回目を迎えた精華寿大学であるが、対象者があくまで現役を終えられた高齢者の方という想定で60歳以上の方を対象にしている。しかしながら、近年において60歳以上の方も現役であることは珍しくなく、対象者の設定が現在の時流にそぐわない状況にあることが課題となっている。来年で50周年を迎えることもあり、現在の精華寿大学の事業の在り方を他市町村で行っている同様の事業の実施状況を踏まえ、委員の意見をいただきながら検討していきたい。

配布資料に他市町村の実施している高齢者の方向けの講座の一覧を載せている。木津川市や久御山町、井手町に関しては現在の精華町と同様に60歳以上の年齢制

限を設けており、宇治田原町、城陽市、京田辺市については、基本的にはほとんどの方が参加いただける内容である、市民大学の形で実施している。

今回、生涯学習課の進めていきたい方向性として、精華寿大学を宇治田原町、城陽市、京田辺市で実施している市民大学形式にして、今まで参加いただいていた年齢層に加え若年層の方を含めた、基本的に誰でも参加できる講座等を実施し、新しい形での生涯学習事業を行っていきたいと考えている。

また、議会等から生涯学習課の各種事業の見直し等を行った中で、効果的な事業を優先的に実施していくべきではないかという意見をいただいたところから、当課の行っている精華町家庭教育学級等の既存の事業を新しい事業の中の1つとして実施していくことを検討しており、他課との連携を図りながらも独自性のある事業を実施していきたい。

今回、委員にお願いしたいのは、今後、新しい事業の内容を行っていくにあたって、どのような講座を実施していくのがいいか、こういう講座を実施できたらいいなというものがあれば、ぜひ意見をいただきたい。

最後に、将来的な話にはなるが新しく事業の内容を変えることに伴い、精華寿大学という名前を新たな名称に変えることも一つの案として考えている。今までの歴史もあり、簡単に変えるべきではないという意見等もあるかと思うが、そういった部分も含めて委員に意見等をいただければと思っているのでよろしくをお願いしたい。

【各委員からの意見等】

（村上副委員長）

今年は何人ぐらい受講されたのか。また、受講者の募集は華創でしているのか。

（事務局）

現時点で40名ほど。広報については華創やホームページで募集しており、精華町公式LINEでの告知も行っている。また、老人会を通じて募集もかけたりしている。

（木崎委員）

60歳以上という年齢制限について時代にそぐわないかなと考える。もう少し広く一般の住民の人に、60歳以上でなくても参加できるような講座にしたほうがいいのかと思う。

（高鍋委員長）

私もそう思う。なぜ60歳以上ということになっていたのか。生涯学習というものがずっと年齢の区別なくできるものが理想であると思われるが、あえて60歳以

上という年齢制限を設けることに、それをよしとする何かがあったのか。何か心当たりある方がいれば伺いたい。

（事務局）

設立当時は全国的にもそういった高齢者を対象にした講座を行う流れがあり、それとは別に子ども向けの事業を行っている市町村もあったが、近年は市民が独自でつくるとか市民大学みたいなものもあつたりとかする中で、幅広い世代と交流してやっていくというのが主流となってきたのが現状である。

（尾崎万佐子委員）

私は現役を終えたらこの寿大学で学習したいな、生涯学習で学びたいなと実は思っていた。でも、何か一步踏み出せなかったのは、そもそも寿大学の中身があまり分からなかったという部分はある。

私自身も70歳を過ぎているが、私を含め、まだまだ元気な方が多いし学ぶ意欲、自分の興味のあることを学びたいなということを思っている方がたくさんおられる。高齢者の方が家から外へ出ていく、そういう機会を創出することがやっぱり大事なというふうに思う。資料の市町村の講座内容を見ていたら、年齢制限なくやっているとところもあるし、例えば城陽市だったら22回ほど、何ともたくさん、どんな内容をされていて、そういう講座を持とうと思ったら講師の方、謝金とかその辺をどういうふうにされているのかなというところに興味を持った。

精華町を含め、他の市町村で具体的にどういう講座等が実施されていたかわかる資料があれば今後の方向性をより検討しやすかったと思う。

私が当時、寿大学の受講を踏みとどまった理由の一つとして、卒業するにあたってレポートを出さないといけないという認識があった。現在もレポートは提出する必要はあるのか。

（事務局）

現在は受講するにあたり、レポートの提出を求めている。ただ、以前は年間で5回講座を行う中で4回は出なければならないという縛りはあったので、そういうところで受講を躊躇されたという話は聞いている。

（尾崎万佐子委員）

今となっては、学んだことを振り返るという点で、レポートを書くという機会は大事だなと思う。年齢制限をなくすという方向性に進めるのも大事であるとは思いますが、定年が伸びてきている中で60歳以上というのはまだまだ現役であり、やっぱり高齢者の方々に特化していくことも同じくらい必要ではないかなと思う。

精華寿大学というネーミングについても、もっともっと勉強する機会を、外へ出られるような意欲を掻き立てることができる名前にすることがすごく大事ななと感じた。

私は女性の会などで、割といろんな講座で受講させていただいており、比較的女性というのはすごく外に出る機会が多いが、夫を見ていてもあまり外に行かないので、男性がどんどん外に出ていける講座を実施してほしいなと思う。

（事務局）

尾崎万佐子委員の意見の中で、かつて、精華寿大学の受講を検討したが受講しなかった理由に講座内容がわからなかったということがあった点について、今までは受講者を募集することだけ告知して、講座内容が見えなかったという課題があった。今後は面白い講座を前に出して、興味をまず持っていただくような取組が必要だと感じており、事前に年間計画を作成し、それを見て受講してもらえる仕組みづくりをしていきたいと思う。

（丸山委員）

私は若年層も含めてというところには大賛成という感じではあるが、この若年層というのはどれぐらいをイメージされているのかお聞きしたい。ほかの市町村でやっているような18歳以上というようなことが一応1つの区切りとして、高校生はこの中に入らないというイメージなのか、それとも高校生でも学校の授業と違うことを学ぶんだったら来ていいみたいなことを想定されているのかお聞きしたい。

（事務局）

18歳以上の方で来てもらうことを想定している中で、学生の方も含めて何か参加できるというものがあるのであれば、参加の対象にしてもいいと考えている。

（丸山委員）

例えば、ぱっと私が自分だったら面白そうかなと思ったのは、それこそ選挙とか意外と知っているようで知らないなというような話を世代を超えて学べる場所みたいなのがあったら面白いと思う。定年終えられた方が今さら勉強したいとなるかはちょっと分からないけれど。高校生が学校の授業以外のことを大学みたいな感じで学べる場というのを感じられたら面白そうだなと思うし、高齢者の方も若者と関わる機会がここでできるんだとなると、それも1つの魅力になるのかなというふうに感じた。

（事務局）

高校生でも興味を持っていただけるようなテーマを考えることは大事で、それこそ皆さんも興味を持ってもらえるようなお金の使い方とか、例えば銀行とかそうい

ったところも講座開催に協力するという声かけとかもいただいているので、幅広い年齢層に刺さるような内容で、高校生でも学んでいけるようなものを充実させていければと考えている。

（向井委員）

高齢者と若者で一緒に受講できる内容を検討するのなら、講座等を実施する時間帯や曜日も併せて考える必要があると考える。例えば、高校生であれば平日は学校があるので平日でも遅い時間帯か土日祝しか受講ができなくなるし、高齢者もあまり遅い時間はしんどかったり、病院に行くので精いっぱいとなることもあり得る。高齢者の人が若い子と一緒に話をしたいけれども、時間帯によってはこの時間ならもういいかと受講を諦めたりするかもわからないので、やっぱり曜日とか時間とかそういうのもちょっと考えてもらったら、より足が向くのではないかなと思う。

私ももう70歳を過ぎたけれど、興味のあるイベントがこの時間に実施するのかなと思う時があるので、そういう時間帯、午前中なら9時からではなくて10時ぐらいにするとか、高齢になられたら早起きの方が逆に遅く起きる方とかそこら辺の波とかというのがあるし、若い子は若い子でクラブとかされていたら、行きたいけど、クラブがあるからいけないということになってきたりする。若年の方を入れるのであれば、そういう時間とか曜日をきっちり考えて、来やすいような感じで持っていないと人は集まらないと思う。

私も以前、寿大学に入りたいなと思ったけれど、この時間無理だなと思ったらもう行けなくなってしまった。当時は全体の受講回数のうち何回か受講しなければならぬようなことが書いてあって、そしたら2回ぐらいしか行けないなと思ったから、もう足が遠のいてしまう。だから、何回とかではなくて、本当に自分が好きなところにぱっぱとうまいこと行ける、そういう時間帯とか曜日をうまいこと考えてやっていただいたら、よりたくさんの方の交流ができるんじゃないかなと思う。

（高鍋委員長）

私は子育てのボランティア、子育て支援やファミリーサポーターに参加させていただいている中で、「すくすく」という冊子があることを知り、いろんなイベントが実施されていることが載っておりすごいなと思って見ていた。今、孫たちと同居していて、いざ孫が暇そうにしているところがないかなと思って改めて冊子を見ると、意外と見にくくて何かピンと来ないことが多い。実際にイベントに行ったら曜日が月曜日とかになっていたら、何で月曜日なのと思うことがある。

それはなぜかと言うと、今年は連休が多い中でその連休の前の日に幼稚園の運動会があって、その連休にちょうど宮参り、七五三が入ったりして、そうすると向こ

うのお父さん、お母さんが来ていて、その連休ががつつり埋まってしまっていることがある。その後の月曜日となると孫も娘もくたくたになっていたりして、こんな日にわざわざ子どもの交流会してくれなくてもいいのにとか思う。それが水曜、木曜ぐらいになると、上の孫が早く帰ってくるから、まあ、いいかとかあったり、この日はやめとこうとかある程度参加することを検討できるような気がする。町内のさまざまな事業の中で、何かしてあげようと思う人が一生懸命やっているのと手助けしてほしい人がうまくかみ合っていないという状況が少なからずあるのではないかと感じる。

あともう一つ、精華町は今、いろんなことのアンケートがLINEで来ることもあり、あれはすごくいいシステムだと思う。アンケートをとるのはなかなか難しく、アンケートを書ける人とか出せる人というのは今まですごい条件があった。その会場に行ってとかファクスを送れるとか、勇気ある人は電話で言ったかもしれない。そういうふうにして声を届けていたのが携帯に出てくると、ちょっと通勤の人でも途中で見るとか、若いお母さんとかでも見るができる。今まで高齢者はそういうのはできないというふうなイメージがあったけれど、最近では意外と高齢になった方でも孫の写真を見るためにスマホを持っているなどということは珍しくない。さまざまな情報を見ているし、割とYouTubeを見ている方も増えてきているということがあるので、その精華町のアンケートというのをどんなイベントでも小まめにしていけば、きっと今までよりもランクアップしたイベントとか、それか講座にしてもそういうことができるかなと思う。そこに来れない人の声を聞き出すというのがすごく大事だと感じる。

子育て支援については、実際に参加できている人は結構安心だったりする。というのも参加している顔ぶれがだんだん同じになったり、そこでもお母さんのサークルというか、仲良しグループができたりしていることが多い。しかしながら、実際、支援を受けたいけど、参加できない、家にひきこもってしまっているとか、介護でも何か中に囲んでしまっている人がいて、その人たちはどこに助けを求めていいかも分からないし、その手だても分からない、行くのも働き方改革があると行政を含め、対応できる時間帯は本当に9時－5時になる。電話も学校にしても5時になったらもう留守番電話に変わるとか、本当に悩みを聞いてほしい時に聞いてもらえない状況もいっぱい出てくるので、それでもやっぱり声を届けられるという体制と言ったら、LINEを使ってとか9時－5時以外でSOSを発信できる、そういうシステムをつくっていかないと。精華町は幸福度はすごくいいけれど、これは誰のアンケートでこの幸福度が京都第何位になっているのかなと思うと、案外そうでもな

いかかもしれないし。

今日の朝、日本の子どもの幸福満足度が38か国の中で37位というふうになってるのを見た。でも、よその国から言ったら食べるのも困っていない、着るのも困っていないというふうに多分見られていると思うし、義務教育というのがあって、教育もちゃんと受けられる。それでも、子どもは満足していないというのは、それは何でかなと思ったら、その本当の答えは子どもに聞くしかない。でも、勝手に大人の思い込みで何か違うほうに取って違うところに手だてというか、手助けしているような気がする。だから、小まめにアンケートを取って、声に出せない人の声を引き出せるような体制というのを私たちが考えていかなければいけないかなと思う。

(村上副委員長)

講座をZ o o mとかオンラインでの聴講とか、あと見逃し配信とか、今風であればそういうのも1つ方策としてあるんじゃないかなと思う。自身が知っているところの講座は、それをされていてリアルタイムで参加できない人も後で見れると。NHKでも見逃し配信とかがあるし、あんな形を学研都市である精華町でやってみてもいいのでは。

②精華町二十歳のつどいについて

(事務局)

精華町二十歳のつどいについては、地域とのつながりや郷土愛を深めてもらい、また二十歳の方は慣習的に大人の仲間入りをするということで社会参加、職業的自立に対する自覚を高め、決意を新たにしてもらう機会を提供することを目的に実施している。

今年度については、令和7年1月13日（月・祝）に午後1時開場、午後1時半開始で、けいはんなプラザのけいはんなホールメインホールで実施させていただく予定。参加対象者数は約390名ほどを見込んでいる。

名称の変更についても、平成30年の1月に民法の一部を改正する法律によって、令和4年4月1日から民法の定める成年の年齢が18歳に引き下げられ、それに伴って本町における令和4年以降の実質成人式の対象年齢について検討を行った結果、先ほど申し上げたとおり二十歳は慣習的に大人の仲間入りをする区切りであるというところから、今までどおり二十歳の方に関しての事業という形で、精華町二十歳のつどいに名称を変更して実施してきた。

昨年度、新型コロナウイルスが5類に移行したことに伴い、もう一度、来賓と主催者の人数等の見直しをさせていただき、整理をさせていただいたところ。

第1回の社会教育委員会議の際に、高鍋委員長からも令和6年度以降の実施方法をどうしていくのかというお話があったかと思うが、内容に関しては昨年度に見直しをさせていただいたというところがあるので、今後においても昨年度と同じ内容で進めていきたいと考えている。そういった中で皆様から何か意見等あればぜひお聞かせいただきたい。

【各委員からの意見等】

（播磨委員）

二十歳のつどいに来賓として、学校に携わるボランティアの方とか学校の校長先生とかは招待することはできないのか。長年ボランティアで道路に立ってくださっている方とか学校ごとに子どもたちに関わってきてくれていた人や学校の先生に参加いただいてもいいのでないか。

（事務局）

学校の先生については、二十歳のつどいの中の二部制のうち、二部の中で恩師との交流ということで登壇いただいたり、欠席される方に関してはビデオメッセージに出演いただくということなので対応させていただいている。

（丸山委員）

私自身は2年ぐらい前に二十歳のつどいに参加させていただいた。その中で会場に行って初めて二十歳になった人の中で実行委員会をやってくれている人たちが何人かいるということを知った。二十歳のつどいが実施される少し前に本人たちがよければ、こういう人たちが実行委員をやってくれているというようなことがもう少し町全体に伝わったら、やりがいがあるのかな思ったので、機会があればどこか駅に1つポスターでもあったらいいなというふうに感じた。

（事務局）

昨年度の華創の中で実行委員の紹介であったり、二十歳になったことに伴いどういったことをしたいかというのを掲載させていただいており、今年度も同じような形で実行委員の方の紹介等を広報紙等で紹介できればと考えている。

（高鍋委員長）

丸山委員は実際に参加した側として、二十歳のつどいが開催される日程についてどう感じられたか。精華町の二十歳のつどいは例年、連休の最後の日に行われており、町外在住の学生や社会人の方が参加しようと思ったら、前日に地元に戻ってきて、当日に今の自宅に戻らないといけないというのが何かかわいそうな気がしてしまう。二十歳のつどいで久しぶりに地元の友達と会って、地元の良さが分かったと

いうのを自分の子どもを見ていてすごく感じた。二十歳のつどいがあった日に、夜もずっと延々一緒にしゃべれたら楽しいのに、やっぱり急いで自分の戻るべきところに戻る子がいるなと思うと、もう1日前に何とかできないかなと。

(丸山委員)

私の時は成人の日が精華町で、その前の日が木津川市がやっていた。何で先に木津川市がやっているのかとは感じたが、逆に成人の日当日に精華町が二十歳のつどいを行えるのはそれはそれでいいなとも思った。

仮に、二十歳のつどいが成人の日の1日前になると、余計にほかの学校ごとの行事とかの時に月曜日の祝日にやりましょうというのを、みんなが日曜日に変えてくれるんだったらいいけど、まちの行事だけ日曜日に移ったとなると、そのための準備がまた変わる、増えるなというのを少し思った。

なので、月曜日の祝日になるけど、それに合わせてみんな1年前から計画を立てているのを崩さないほうがいいのかなというふうに個人的に思ったが、ほかの人の意見は分からないので何とも言えない。

(川村教育長)

今年のカレンダーを見ると、6日は土曜日で、7日が日曜日、成人の日は月曜日の8日だった。精華町はけいはんなプラザのメインホールを成人の日に押さえてある。木津川市はしょうがないから前の日にやっているというところがあるのではないかな。

(木崎委員)

二十歳のつどいでイベントか何か実施する予定はあるのか。二十歳の子たちを祝うということで、僕がいいなと思ったのは、山城で和太鼓の会をやっている人たちで、子どもたちも含めて活動をしている方がいる。そういう頑張っている子たちの和太鼓演奏なんかも取り入れて盛り上げてあげたら喜ぶのではないかなと。

(事務局)

二十歳のつどいの中で、精華町少年少女合唱団に参加いただいて、一部の式典開会前の催しものをしていただく予定となっている。

3 報告

(1) これまでに参加した社会教育委員関連事業等について

事務局より、第1回社会教育委員会議後から10月中旬ごろまでに委員に参加いただいた事業について説明し、その後参加された感想を各委員に伺った。感想・意見は以下のとおり。

・令和6年度山城地方社会教育委員連絡協議会総会

日時 令和6年6月7日（金） 場所 精華町むくのきセンター

（丸山委員）

まず、総会において司会進行をするという経験をさせていただき、とても勉強になったと感じている。兵庫県震災・学校支援チーム「EARTH」の方々の講演を聞き、ちょうど能登の地震の半年経った後だったということで、すごく身近なこととしてこれからの南海トラフとかも想定しながら話が聞けたのはとても良い機会だった。

（高鍋委員長）

東日本大震災があった時に、友達に仙台が実家の人がいたということで東北のボランティアに行かせていただいた。被災地での泥かき作業を通じて、自身が本当に役に立てるのかと考えることもあったが、被災者から「普段と違う人が来てくれて新しい風が入ってほっとした」という言葉を受けて、誰でも何かしらの形で貢献できることを身をもって知った。また、被災した高校生が地元でない場所でボランティアに参加した理由を聞き、近所の人々に気を遣わせないために遠くのボランティアセンターを選んだとのことだった。これらのことから物理的だけでなく心の支えになることもボランティア活動になりうることを理解できた。

今回、この「EARTH」の講師の方々も自分の仕事を休んでその被災地に行くことに何か言われることはなかったかという話もあったが、兵庫県が被災された地域だったからということもあり、みんなが行ってあげてとすごい快く応援して下さるということだった。精華町を含め、京都の人々の中には災害が起こることを想定していない人が多いように思える。

ボランティア活動には、するボランティアとしないボランティアがあり、誹謗中傷やデマ情報を流さないことや、ボランティアに行く人を快く送り出してあげたり応援してあげることもボランティアになると思うし、被災された方の心の支えになれるということを今回の講義を受けて改めて実感した。

・令和6年度やましろ未来っ子みんなでHUGフォーラム

（第1回子育てサポータースキルアップ講座）

日時 令和6年6月23日（月・祝） 場所 アスピアやましろ

（丸山委員）

薬物の乱用の話が印象に残っており、自分に身近な年代の中高生が意外と薬物に

近い距離で生活をしていることを知った。精華町では大丈夫だろうというイメージを勝手に持っていたが、山城地区の中でも意外と薬物に関する問題があることを知れたのは良い機会となったように思う。

・令和6年度京都府社会教育委員連絡協議会総会

日時 令和6年6月28日（金） 場所 みやづ歴史の館

（尾崎麻由美委員）

講義の内容が「ウェルビーイング」というなかなか身近に言わない言葉がテーマだったので、その言葉の意味を含めていろんなことを学習させてもらったなと思っている。

（堀口委員）

講義の中で地域との関わりというものが話になっていて、その難しさというのを皆さん、それぞれにどのように関わって、関わられたくない人もおられる、そういう人たちにどのように声がけをして、どのように地域とのつながりを持ってもらおうかという話をしていただいた。その時、やっぱり実際は難しいと、最初にそれが出てくる。声かけられたくない方もやっぱり中にはおられるので、そういう人たちに皆さん、どのようにされているのかという話がグループの中で出たけれども、明確な答えはなかなか出てこない。うちはこういうふうにしようとは思っているけど、精華町、私だったら光台の中でしようとは思っているが、やっぱりなかなか出てきていただけない方とかという問題が出てくるので、その辺の難しさというのをどこの地域も抱えているんだなということを改めて感じた。

（村上副委員長）

講演の中の事例の紹介の中で、長野県飯田市のりんごの並木まちづくりネットワークというところの紹介があり、青年団とかその地域での各団体の方たちの熱い思いが地域の協働をつくり上げているという取組の報告をしてくれて、こういうことがうちら精華町でもできたらいいなというのを改めて思った。いろんな団体が出てきているので、その団体を何とかもっと活性化できればなというふうにその時、思ったけれども、それがまだ力不足でできていないのが残念だなと、今後の課題かなというふうに改めて思った。とても良い研修会だった。

（吉田委員）

当日は所用で途中で帰らなくてはいけなくて、講義等も最後まで聞いて知見を深めなかったところ。次回もこのような社会教育委員関連事業に参加できればと思った。

・令和6年度第2回子育てサポータースキルアップ講座

日時 令和6年8月9日（金） 場所 京都府田辺総合庁舎

（丸山委員）

講師の方が吹田市の社会教育施設の館長をされていたという話を聞いて、その時に社会教育施設で何か活動していた子たちが大人、大学生になってからまたボランティアとして戻ってきているという話を聞いて、社会教育、まちで参加した事業がその子たちの将来の活動につながっているという話を聞いたのがすごく印象的だった。

・令和6年度近畿地区社会教育研究大会（京都大会）

日時 令和6年9月6日（金） 場所 京都テルサ

（村上副委員長）

全体会では、鷹山が復活されたというのをいろいろ聞いて、京都1200年以上の伝統のある中での音色というのはやっぱりすばらしいなど、心打たれたなど、聞いているだけで心癒されるなどと思った。

分科会では、第4分科会の榎本の報告を聞いて、登壇者の教育長さんがその小学校の校長先生で、その方が図書室のボランティア、その辺から地域の方にどんどん学校に入ってもらおうということで始められたみたいで、そのうち、登校ボランティアで学校まで子どもたちを送ってくれる方を、そのまま帰ってもらおうのではなくて「ちょっとお茶でもどうですか」とお誘いして、そこで子どもたちと交流する時間を設ける。そこからどんどん地域の輪が広がって行って、それを見ていた子どもたちが「僕たち、私たちにもお茶を振る舞わせてください」という取組に発展したという報告で、そういうことをされているんだなということを知った。

分科会を発表された方は大病されたみたいで酸素ボンベを持って、その上で発表されたということで、すごいバイタリティがある方だなと感じた。視察に行くならここに行きたいなと改めて思った。

・令和6年度やましろ未来っ子まなび・体験活動サポーター研修会

日時 令和6年10月10日（木） 場所 城陽市立北部コミュニティセンター

（木崎委員）

ダーツ協会の方が来られていろいろと話を聞いた。当日に行ったダーツ体験では、5人ずつぐらいのチームに分かれてそれぞれが競い、その時に失敗しても的に当たった時もみんなで喜び合うというか、励まし合ってやるというようなことに一緒に

参加させてもらったが、非常に楽しかった。これならば子どもたちとかお年寄りの方も参加できるなど。そういうみんなで喜び合えるというようなゲームみたいなものを精華町でも作ったらいいのではと思った。

ダーツの備品は割と高価で3万円ぐらいするらしく、社会福祉協議会とかあいうところで買ってもらって、それを自治会とか子供会とかに貸してあげてやれば、盛り上がるのではないかなと思った。

（高鍋委員長）

研修会の前半でチームを組んでダーツをしていろいろゲームみたいなことをして、ダーツにうまく刺さった時にはハイタッチとかいうのがあった。全然知らない初対面の人と半ば強制的なハイタッチがしていくうちに、ほんの数分間のうちにものすごいチームになるという体験をさせていただいて、人って結構つながりやすいものだなあと、そういうことがあるなというのを実感させていただいた。

・令和6年度山城地方社会教育委員連絡協議会理事会（第1回、第2回）

日時 令和6年5月10日（金）、10月11日（金）場所 京都府田辺総合庁舎
（村上副委員長）

先日第2回理事会に参加し、その中で来年の1月に山城の社会教育委員の研修会がアスピアやましろで実施されるとのことだった。去年は分科会の担当市町ということで発表等準備をしていただいたが、今年度は研修会の担当は当たっていないので気楽に参加していただければと思う。

会場が木津川市のアスピアなので、精華町でまとまってハイエースで行ってもいいし、近場なのでマイカーでも十分駐車場はあるようなので、時間的にご都合つかない方は車で行っていただければなど。また、昨年と同じようにラウンドテーブルで議論があって、小グループでの各市町の方たちとの交流となる。案内は事務局から送ってもらう予定なので、ぜひ参加いただければと思う。

山城地方社会教育委員連絡協議会の重松会長が近畿地区社会教育研究大会京都大会が大成功に終わって感謝の旨を熱い思いで述べておられた。京都大会の協賛として、福寿園のお茶も無料で振る舞っていただいて、前回の5年前の近畿大会も福寿園から無料でお茶を振る舞っていただいて2回続けて提供されている。サントリーとそういうつながりが社会教育委員の中で持てているというのはすごいなと感じた。

（2）今後の社会教育委員関係の年間行事予定について

事務局より、第2回社会教育委員会議以降に行われる社会教育委員関係の年間行

事予定について説明。行事予定は以下のとおり。

- ・令和6年度山城地方社会教育委員連絡協議会第3回理事会

日時 令和6年12月13日（金）14時30分～ 場所 京都府田辺総合庁舎

- ・令和6年度精華町二十歳のつどい

日時 令和7年1月13日（月・祝）13時30分～ 場所 けいはんなホール

- ・令和6年度山城地方社会教育委員連絡協議会研修会

日時 令和7年1月17日（金）14時～ 場所 アスピアやましろ

- ・令和6年度第3回子育てサポータースキルアップ講座

日時 令和7年1月21日（火）13時～ 場所 京都府田辺総合庁舎

【各委員からの意見等】

（尾崎万佐子委員）

第3回社会教育委員会議の日程は現時点で決まっているのか。

（事務局）

本来であれば第1回の会議の時に村上副委員長もおっしゃられたとおり、年間で4回実施する想定で進めていた。第2回を当初行う予定が8月30日で、そこからもう一度年内に行い、さらにそこから4回目を年明けに行えればというところだったが、第2回の開催が台風10号の接近に伴う延期となり本日の開催となったため、年間4回の実施が日程調整等を含め難しいというのがある。第3回の実施については年明けの段階で、また改めて調整をさせていただく予定。今回に関しては年間3回とさせていただこうかと思っているのでよろしくお願いいたします。

（3）社会教育委員として参加している他団体の活動について

各委員が他の団体の委員をされている中での報告を行った。報告・意見は以下のとおり。

- ・精華町民生委員推薦会委員（吉田委員）

現時点での報告内容なし

・精華町教育委員会所管施設指定管理者評価委員会（高鍋委員長）

昨年からむくのきセンターの指定管理者がスポーツ協会に加え、施設のメンテナンスの専門をしている三幸株式会社が共同企業体として参画しているところで、大きく変わったところはないかと思う。

ただ、いつも壁になっているのが予算の問題で、なかなか予算の関係上というところでみんなの思いが叶わないところが多いかなと感じている。

・精華町子ども祭り実行委員会委員（尾崎麻由美委員）

6月27日に第1回子ども祭り実行委員会が開催された。今年度の子ども祭りの日程や実施内容の報告が行われ、11月17日（日）に開催予定とのこと。第2回の実行委員会については年明け後に行われる予定とのこと。

・精華町子どもの読書環境づくり推進協議会（播磨委員）

今年度は9月から始まっており、学識経験者をはじめ、行政・学校・幼稚園教育・PTAの関係者から8人、事務局から6人で会議が年に3回行われる予定。子どもの読書環境整備5か年計画というのを毎年、5年ごとでまとめて行っており、今年が4次の最終年で、来年から新しくまた5か年計画というのが始まる。今年度は5年でどんなことをやったか、その反省ともっとこんなふうにしていこうというのを幼稚園や小学校からの意見をまとめて、それを見せてもらうというのが主な活動内容である。

・精華町明るい選挙推進協議会委員（丸山委員）

※会議途中退席のため、報告なし

・いじめ問題対策委員会（村上副委員長）

会議については年一度開催され、今年度は10月7日に行われた。青少協とか人権とか保護司とか保幼小中の校長先生方、代表の方に来ていただいて、精華町のいじめの現状について交流した。委員長は大和の家の施設長がしておられて、自分は副委員長をさせていただくことになり、閉会の挨拶をさせてもらった。

報告の中では昨今の状況で認知件数は多いけれど、重大事象に至るのはほとんどなくて、精華町のいじめについては現時点では安心の状態かなというふうに感じた。ただ、その中で保育所の先生が保育園では子ども以上に保護者の不安が大きくて、その保護者たちの心の安定を保育士たちは一生懸命図っていると。それが子どもた

ちにも影響していくのは明らかなので、その辺から保育所、幼稚園、あと小学校、中学校とその辺での子どもの様子、また保護者の様子をしっかりと伝えていく、連携していくということがいじめの解消の1つの大きな手だてになるのではないかなと感じた。

・精華町町民健康づくり推進協議会委員（堀口委員）

1月14日に今年度初めての会議を行う。去年まで委員長をしていただいていた方が引退されたこともあり、今年どなたが委員長になられるか、そこからのスタートになる。

【各委員からの意見等】

（高鍋委員長）

今回の各委員の報告のように定例会はもちろんのこと、社会教育委員のグループLINEもあるので報告内容や問題点・課題等をみんなで共有していければと思う。

（４）中学校部活動の地域移行実証事業について

小笠原生涯学習課長より中学校部活動の地域移行実証事業について報告。報告内容は以下のとおり。

（小笠原生涯学習課長）

昨年度の第3回社会教育委員会において、文化部活動の地域移行について報告させていたいたが、今年の10月から運動部も新たに実証事業を開始したので、改めて部活動の地域移行とこれまでの状況について報告させていただく。

配布資料にあるとおり、町内の中学校では生徒数の減少により募集停止や廃部になる部活動が出てきており、学校規模による部活動数の格差や他校との合同チームによる活動を行っているといった現状がある。また、半数以上の教員が競技経験のない部活動顧問を担っており、負担を強いているというような状況が続いている。部活動改革を進めるにあたり、土日については地域において継続した活動機会を確保するため、精華町スポーツ協会や文化協会の傘下の既存の団体や指導者、吹奏楽については民間事業者を地域資源として活動づくりを進めているところ。

土日での地域での活動は部活動とは切り離し、習い事として自主的・自発的にスポーツ、文化、芸術活動に継続して親しめるような環境を構築することを目指していく。令和8年度から土日の部活動は原則、行わないことにしており、部活動の延長という考え方ではなく、土日に地域でスポーツ、文化活動の機会に参加する子ども

もが増えることを想定して、その環境づくりを進めることを狙いとする。

本町の今年度開始したスポーツの方の実証事業は、運営主体となる精華町スポーツ協会へ事業委託をして、スポーツ協会が総括的なコーディネートを担い、協会に加盟する団体の中から事業の実施が可能な競技種目を選定し、各団体の主たる活動場所において実施をしていただく。

他の部活動が活動している中で、本事業の活動場所の確保が可能な種目、かつ中学生の受入れに前向きな団体をお願いをして、今年度はソフトテニス、陸上の短距離、そして陸上の中長距離、卓球の３種目、４団体において実証事業をスタートした。学校、特に実証事業を行う種目の部活動顧問への説明、実施団体との協議、部活動顧問と実施団体との調整会議などを経て、学校を通して配布資料記載のとおりチラシを配付して、参加者の募集を行ったところ。現在、７０名が参加登録をしていただいております、実証事業が始まってからの参加登録者もいる状況である。

実施時間及び回数は４団体ともに１０月から１２月の期間に６回の実施をしていただくことになっており、実施の曜日や時間については各実施団体の活動計画に沿ったものとなる。

参加申込みの状況は、現在、ソフトテニスは４５名、陸上短距離で４名、陸上中長距離で９名、卓球で１２名、合計で７０名の中学生が参加していただいている。各団体での第１回目の実施状況について、事業の委託先であるスポーツ協会のホームページに掲載されており、本日の配布資料に各競技の状況についての写真等を掲載していただいているので、お目通しいただきたい。

なお、昨年度から始まっている文化部の活動の吹奏楽の地域移行の実証事業については、今年度が２年目となり、昨年度は町内の中学生２５人が参加をし、今年度については１８人の生徒が参加している状況。今後、スポーツ協会や文化協会に加盟する団体の多くが中学生も対象として受け入れてもらえるようになれば、部活動改革がもたらす効果として本町の社会教育の活性化や地域でのスポーツ・文化活動を通して多世代の交流にもつながることにも期待をしているところであり、引き続き取組を進めていきたいと考えている。

【各委員からの意見等】

（高鍋委員長）

今後の方向性として、関わる人全ての意見がまとまればいいかなと思う。参加する中学生、学校の先生、お世話される文化協会の方、スポーツ協会の方、教育委員会の方、それぞれの意見が全部出て、その中で一番良い方法が決まるのが理想的

である。

それと中学校で部活動するということの目的を今一度、はっきり掲げて、子どもが楽しむためなのか、学校教育の一環としてなのかとか、そういった目標というものをしっかり掲げて、その中で一番いい方法というのをみんなで考えて進めていけたらいいと思う。

（５）図書館の自習可能席について

上野生涯学習課担当課長より図書館の自習可能席について報告。報告内容は以下のとおり。

（上野生涯学習課担当課長）

配布資料の図書館における自習可能席の本格導入についてをご覧ください。

図書館では、７月１０日から９月末までの間、自習可能席を試行的に設置し運用してきた。この取組は図書館前のスペースで学習する方々への対応を契機として行ったものである。この間、大きい問題はなかったが、夏休み期間に入って以降利用者数が増加したことから８月１５日以降は利用できる時間を調整し、試行を続けてきた。その後は大きな混雑もなく、利用者からはおおむね好評をいただいたことから、試行期間中と同じ席数、２０席を自習可能席として１０月１日から本格導入をしている。

【各委員からの意見等】

（村上副委員長）

昨今の猛暑もあり、子どもたちにとって自習可能室ができたことは良い取組だと思う。ちなみに図書館のどの辺にあるのか。

（上野生涯学習課担当課長）

図書館の一番奥の北側、入っていただいて左に向かって一番どんつきの辺りと畳コーナーの場所に設置している。

４ 閉会

議事・報告の終了に伴い、司会を高鍋委員長から小笠原生涯学習課長に戻した。最後は村上副委員長に閉会の挨拶をいただき、会議を終了した。